

令和 8 年 4 月 2 0 日

令和 7 年度「熊本大学病院医療助成金」使用実績報告書

(一般財団法人恵和会寄附金)

使用者 (代表者)	氏 名	所 属	職 名
	内藤大貴	呼吸器内科	医員
グループ全員 (記入欄が不足する場合、 別紙に記入)	猪山慎治	呼吸器内科	特任助教
	濱田昌平	呼吸器内科	特任助教
	赤池公孝	呼吸器内科	特任助教
	猿渡功一	呼吸器内科	助教
	西村千恵美	東11階	看護師長
活動テーマ	呼吸器病棟における高齢者への総合機能評価導入と 多職種連携によるQOL向上支援		
助成金額	500,000円	助成金使用総額	500,000円
【使用内訳】			
消耗品 100,364円 (内訳)			
コピー用紙			20,504円
インクカートリッジ			79,860円
旅費 110,320円 (内訳)			
令和8/3/6-3/8 名古屋大学医学部 旅費2名			
その他 289,316円 (内訳)			
日本老年医学会高齢者医療研修参加費2名			110,000円
書籍			14,355円
移動式モニター			114,741円
ポータブルモニター			50,220円
成 果 (※具体的な効果および自己評価も含め1,000字程度)			
本活動は「呼吸器病棟における高齢者への総合機能評価 (CGA) の導入と、多職種連携による QOL 向上」を目的として実施した。			
① 病院理念の達成度			
・患者本位の医療を実践：総合機能評価の導入により、身体機能のみならず、おろそかにしがちな認知機能、精神状態、社会的背景を含めた包括的な患者理解が可能となった。さらに、患者向けパンフレットおよび在宅酸素導入教育動画を作成し、評価の目的や支援内容を視覚的に提示することで、患者・家族の理解促進と意思決定支援の質向上につながった。			
・医学の発展及び医療人の育成：医師 2 名が日本老年医学会主催の高齢者医療研修会および全日本病院協会主催の総合機能評価加算に係る研修を受講し、実践的知識の習得と院内への還元が図られた。これにより、高齢者医療に関する標準的な評価手法の理解が進み、組織的な診療能力の底上げに寄与した。			

・地域の福祉と健康への貢献：退院後を見据えた評価・支援体制の整備により、在宅復帰や地域連携の強化に資する基盤を構築した点で一定の成果が認められる。

② 期待された効果の達成度

入院時における総合機能評価の導入基盤が構築された。具体的には、対象となる高齢患者に対し、Barthel Index、老研式活動能力指標、認知機能評価（MMSE または長谷川式）、GDS15 といったスクリーニングツールを活用し、身体機能低下、認知機能障害、抑うつ傾向などの潜在的問題を早期に把握する体制を整備した。

評価として、これにより従来見過ごされやすかった生活機能や社会的背景を踏まえた診療が可能となり、個別性の高い治療および支援への展開が可能となった点は、期待された効果の達成といえる。

また、診療報酬の観点では、東 11 病棟では、入退院支援加算 1（700 点）を 2025 年 12 月より算定し、病棟の約 7 割が対象となっている。さらに、本事業により総合機能評価加算（50 点）の上乗せが可能となり、医療の質向上と収益性の両立が図られた。

③ 将来の発展性・可能性

看護師および医療ソーシャルワーカーを中心とした退院支援カンファレンスにおいて、総合機能評価結果の共有を標準化し、薬剤師、リハビリテーションスタッフ、管理栄養士など多職種との連携をさらに強化し、その内容を患者さんの生活に還元していく方針である。

これより、再入院予防、在宅復帰支援の質向上、QOL の維持・向上、といったアウトカムの改善が期待される。さらに、本取り組みで得られた知見や運用ノウハウを院内で体系化・共有することで、若手医療者の教育および診療の標準化を推進し、持続的な医療の質向上につなげていく。

【別紙】

グループメンバーの氏名・所属・職名

平田 圭	東 11 階	副看護師長
宮崎 彩乃	東 11 階	看護師
舩友 美穂	東 11 階	看護師
林 夏緒	東 11 階	看護師
西村 文宏	薬剤部	病棟薬剤師
徳丸 千優	医療サービス課	ドクターズクラーク
組原 佳菜	地域医療連携センター	看護師
山田 裕也	リハビリテーション部	理学療法士
児玉 了	リハビリテーション部	理学療法士